

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
日本電子専門学校		昭和51年9月10日	古賀 稔邦		〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人電子学園		昭和38年12月17日	多 忠貴		〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761		
目的	基本的なシステム開発技術から応用的な開発技術までを学び、多様化する業務アプリケーション開発の技術・知識を持った情報処理技術者を育成する。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程		情報処理科		平成7年文部科学 大臣告示第7号	—	
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1710	510	0	1200	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		233人		8人	10人	18人	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、59点以下を不可とする。 成績評価は、試験、平常の成績、成果物等により行う。		
長期休み	■学年始め: 4月1日 ■夏季: 8月1日～9月10日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■春季: 3月21日～4月6日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	■卒業条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。卒業条件に該当しない者は、原級留置とする。 ■進級条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 電話・メール連絡、個人面談 自宅訪問、保護者連携			課外活動	■課外活動の種類 学園祭、体育祭 ■サークル活動: 有		

就職等の 状況	■主な就職先、業界等 情報処理のシステム開発に関わ る業界 アルファシステムズ、ミツイワ、京 急システム 等	主な資格・ 検定等	基本情報技術者、応用情報技術者、IT パスポート、Microsoft Office Specialist(MOS)、情報検定(J検)等
	■就職率 ^{※1} : 94.8 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 91.1 %		
	■その他 就職以外の進路は、進学及び留 学生の帰国。		
	(平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)		
中途退学 の現状	■中途退学者 7 名	■中退率 3.1 %	
	平成27年4月1日 在学者 223 名 (平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 216 名 (平成28年3月31日 卒業者を含む)		
	■中途退学の主な理由 学習上の理由、経済上の理由、健康上の理由		
	■中退防止のための取組 担任制、キャリアセンターサポート体制、新入生準備教育、学習目標設定・管理、個人 面談、保護者連携、出席管理、学生相談、カウンセリング、自宅訪問		
ホームページ	URL: http://www.jec.ac.jp		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

多様化する業務系アプリケーション開発の技術・知識を持った情報処理技術者を育成するため、情報処理システム会社と連携し、以下の①～③を踏まえた教育課程の編成を行う。具体的には、新たな科目の設定、既存科目の内容・教育手法の改善、教材の開発、情報処理技術者として必要となる知識や技術などを実践的かつ専門的な職業教育の実施に向けた協議・検討することを基本方針とする。

- ① 情報処理業界で必要となる一連のシステム開発の技術・知識。
- ② 多様化する業務系アプリケーション開発で、業界ニーズや技術動向。
- ③ 企業と連携した実践的な職業教育の実施方法。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名前	所属
成井 弦	特定非営利活動法人エルピーアイジャパン
鹿島 智明	NECネクサスソリューションズ株式会社
古賀 稔邦	日本電子専門学校 校長
杉浦 敦司	日本電子専門学校 教育部 部長
佐々木 卓美	日本電子専門学校 教務部 部長
船山 世界	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長
出崎 誠司	日本電子専門学校 情報処理科 学科長

(開催日時)

第1回 平成27年9月17日 14:00～16:00 開催

第2回 平成28年3月3日 14:00～16:00 開催

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

多様化する業務系アプリケーション開発の技術・知識を持った情報処理技術者を育成するため、科目「卒業制作」において、連携する情報処理システム企業(3社)より、目標提示ならびに評価・指導を受けることを基本方針とする。

科目名	科目概要	連携企業等
卒業制作	2年間の集大成として、グループ単位でテーマを決めて、システムの設計・プログラミング・テスト各工程を実践しシステムを構築する。尚、産学連携により連携する企業から評価とアドバイスをいただく。	株式会社ヴァル研究所 ナビオコンピュータ株式会社 株式会社クワトロシステム

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

学校関係者評価委員会の分野別分科会ならびに教育課程編成委員会の意見や検討内容の他、情報処理業界の動向をもとに、現在教員に不足している知識、技術、技能に関する研修や教育的資質に関する研修を研修規定に則って実施する。

これまでは、研修業者が主催するIT技術に特化した研修に参加していたが、今後は更に連携する情報処理システム企業や団体から講師を招き、最新の技術・知識を習得するための研修を計画し、授業への展開やオリジナル教材等にも反映させることを基本方針とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
石本 則子	株式会社スタジオフェイク
井沢 祐	株式会社スタジオフェイク
内田 昌宏	株式会社 ラック
乗浜 誠二	株式会社 ナレッジコンスタント
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン
尹 剛志	株式会社++ (シット)
浅賀 央起	株式会社ぴえろ
川崎 紀弘	株式会社AZホールディングス
渡辺 登	株式会社アフレル
満岡 秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation
宮井 あゆみ	公益社団法人画像情報教育振興協会 (CG-ARTS協会)
中台 浩正	東京商工会議所 新宿支部
原 洋一	一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会
米井 翔	一般社団法人 組込みシステム技術協会
長崎 晶彦	東京都立 荻窪高等学校
勝間田 清一	私立 明星学園高等学校
沼田 宏	株式会社インターカルト日本語学校
小澤 博太郎	百人町西町会
中山 秀昭	卒業生 株式会社 ヴァル研究所
谷 伸城	卒業生 株式会社アプリケーションプロダクト
二俣 久美	保護者
秋永 美穂	在校生
大宮 晃平	在校生
宜保 吉弥	在校生

(学校関係者評価結果の公表方法)

:URL:<http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/occupation-practice.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

ホームページ、広報誌等の刊行物、その他(授業成果発表会、進級・卒業制作発表会、学科ニュース)

URL:<http://www.jec.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報処理科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ハードウェア I	ハードウェア I では、コンピュータの構成要素や内部における数値表現、各装置の役割、入出力インタフェースの種類などについて学習します。	1前	30				○			○		
○			ハードウェア II	ハードウェア II では応用として、浮動小数点、メモリ、ハードディスクなどの表現方法や計算方法を学習します。	1後	30				○			○		
○			ソフトウェア	コンピュータを使う上で必要とされるOSや処理プログラム、情報を管理するために必要なファイルとデータベースのデータ構造、アルゴリズムについて学習します。	1前	30				○			○		
○			ネットワーク & セキュリティ	データ通信、通信ネットワークの役割、イントラネットの構築・運用に必要な技術とセキュリティについて学習します。	1前	30				○			○		
○			IT戦略 & ITマネジメント I	ITパスポート試験に対応したシステム戦略・経営戦略・IT業界のプロジェクト管理・マネジメントなどを中心に学習します。	1前	30				○			○	○	
○			IT戦略 & ITマネジメント II	基本情報技術者試験に対応したシステム戦略・経営戦略・IT業界のプロジェクト管理・マネジメントなどを中心に学習します。	1後	30				○			○	○	
○			Linux I	サーバーOSとして業界標準になりつつあるLinuxの基本的な知識や操作について実習を通して学習します。	2前	30				○	○		○		
○			Linux II	Linux I で学習した内容をもとに管理に必要な知識とその仕組みなどについて講義と実習を通して学習します。	2後	60			△	○	○		○	○	
○			アルゴリズム I	基本情報技術者試験対策としてプログラム作成に必要な「問題解決のための処理の手順」を演習形式で流れ図を使って表現します。アルゴリズム I では処理の基本となる整列や探索、データ構造について学習しま	1前	60				○			○	○	
○			アルゴリズム II	アルゴリズム II では、基本情報技術者試験対策として擬似言語によるアルゴリズムの表し方など、例題をもとに学習します。	1後	30				○			○	○	
○			C言語	基本情報技術者試験対策として、アルゴリズムに沿ったプログラミングの基本から応用までを実習で確認しながら学習します。	1前	120			△	○	○		○	○	

○		Windows プログラミング	VisualStudioを使ってオブジェクト指向にもとづくプログラム開発技術（画面デザイン、コントロール、ファイル操作、データベース操作）を学習します。	1 後	90		△		○	○		○	○
○		Webプロ gramming	VisualStudio環境で、データベースサーバと連携したWebアプリケーション開発に必要な技術ならびにプログラミング手法などを学習します。	2 前	90		△		○	○		○	○
○		J a v a I	現在実務用プログラミングで最も使用され応用範囲も広いJava言語を使ったプログラミングの基礎を学習します。現在実務用プログラミングで最も使用され応用範囲も広いJava言語を使ったプログラミングの基礎	1 後	120		△		○	○		○	○
○		J a v a II	マルチスレッド、コレクション...などJavaが持つ豊富な応用機能活用した現実的なプログラム開発技法を学習します。	2 前	120		△		○	○		○	○
○		J a v a III	Javaを使ったサーバサイドプログラミングを学習します。	2 後	90		△		○	○		○	○
○		ア プ リ ケ ー シ ョ ン プ ロ グ ラ ミ ン グ	業務アプリケーション開発に必要な知識と技術について、事例をもとに学習します。	2 前	90		△		○	○		○	○
○		制御プロ gramming	自動車、家電...など、様々な機器に組み込まれているコンピュータ上で動作するプログラムの開発方法から、各種デバイスの制御方法までを学習します。	2 前	90		△		○	○		○	
○		P H P プ ロ グ ラ ミ ン グ	PHPプログラミングではWebプログラミングで必要となるサーバとクライアントの関係について学習し、PHPの基本文法とPHP特有のWeb技術、データベースを利用したアプリケーションの構築について、練習問題と実習課題のプログラミングと実行を通して	2 後	90		△		○	○		○	○
○		モバイルア pplication	近年ビジネスシーンで活用されることが多くなったタブレット上で動作する実務プログラムの開発技法を学習します。	2 後	90		△		○	○		○	
○		システム設計	システム開発における基本計画、外部設計、内部設計、プログラム設計、テスト仕様書の各工程における作業概要を学習します。	1 前	30		○			○		○	
○		システム設計 演習	情報処理システムの企画から、設計・開発、テスト、運用までの概要をいくつかの演習テーマをもとに学習し、情報処理システムを構築するために必要なシステム設計技術を修得します。	2 前	60		△		○	○		○	
○		S Q L	データベースの機能、データの正規化、リレーショナルデータベース用言語：SQLについて、実習を通して学習します。	1 前	60		○		△	○		○	○
○		データベ ース設計	システム開発者に必要なデータベースの設計技術を、事例をもとに学習します。	2 前	30		○			○		○	
○		データベ ースシステム開発	基本オブジェクトの作成、データ設計、商品売上システムなどの開発を、マイクロソフト社のAccessを使って実践的な技術として学習します。	2 後	90		△		○	○		○	○

○		卒業制作	2年間の集大成として、グループ単位でテーマを決めて、システムの計画・設計・開発および運用の各工程を実践的に経験し、システムを構築します。	2後	180				○	○		○	○	○
○		資格対策講座Ⅰ	ITパスポート試験の合格を目指す科目です。テーマ毎に問題を解きながら解説を行い、理解していきます。また、定期的に模擬問題などを実施し、詳細な分析をもとに弱点を克服します。	1前	30		○			○		○		
○		資格対策講座Ⅱ	基本情報技術者の合格を目指す科目です。テーマ毎に問題を解きながら解説を行い、理解していきます。また、定期的に模擬問題などを実施し、詳細な分析をもとに弱点を克服します。 尚、状況によって情報処理技術者試験の習	1後	30		○			○		○	○	
		○ 資格対策講座Ⅲ	基本情報技術者試験の午後対策を中心に模擬問題の実施・解説を繰り返しながら、集中で授業を行います。	2前	15		○			○		○		
	○	Officeエキスパート	マイクロソフト社のビジネスソフト：Excelを利用した実務レベルの操作を学習します。また、MOS検定試験の合格も目指します。	2前	90		△			○	○		○	○
○		コンピュータリテラシー	業務等で必要となる知識として、マイクロソフト社のWord・Excel・PowerPointの使い方について例題をもとに実習形式で操作を学習します。また、Web関連のシステム開発で必要とされるHTMLの基本を学習します。	1前	30					○	○		○	
○		就職活動リテラシー	就職活動で必ず行われる書類審査や面接などに備え、万全の準備を行うワークショップ。ワークシートやグループワークを利用した体験型学習で、楽しみながら就職活動の準備を行います。	1後	30		○			○			○	
○		ビジネスコミュニケーション	社会人として必要なコミュニケーション能力を身につける他、色々なツールを使って自己分析など行います。	1後	30		○			○		○		
○		ビジネス文書&プレゼンテーション	社会人として必要なコミュニケーション能力を身につける他、色々なツールを使って自己分析など行います。	2前	30					○	○		○	
合計				34科目		2085単位時間								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件 「可」以上 (留意事項)	試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で	1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。